



はねの



175号

自治会の現在と今後について

羽根野台自治会会長代理 籠谷育英

羽根野台自治会は昨年創立50年という節目を超え、新たな道を歩み始めました。自治会内における住民数は、ここ10年間で世帯数は殆ど変化がないものの、住民数は利根町住民基本台帳によると20%程度減少しており、子供達の結婚や高齢化による世帯内の構成が変化していること等、人口数からも想像できます。

現在の自治会は、このような環境変化にさらに追い打ちをかける様に、令和2年から猛威を振るい始めた新型コロナウイルス感染症拡大により、私たちの生活も一変し、更に、昨年勃発したウクライナ戦争による世界的な政情不安が重なり、他国の遠い出来事が、我々の生活にまで大きな影響を与えることなど想像もしませんでした。これらの環境変化が自治会活動にも大きく影響を与え、活動の大きな柱でもある会員相互の懇親（夏祭りや芋煮会等）も3年間にわたり開催出来ず、大人だけではなく子供達への影響も計り知れないものになってきてしまいました。

そうした厳しい時代を迎え、今後の羽根野台自治会はどうあるべきか考えてみました。

現在、自治会として抱えている課題としては、以下の通りです。

- ① 自治会会員の高齢化と後継者不足
- ② 班編成と班長就任時の輪番制の限界
- ③ 会員相互の懇親・扶助等各種イベントのあり方の再検討
- ④ 非会員化対策と会費・共益費及び積立金のあり方
- ⑤ 災害に備えるための自主防災体制・対策の整備
- ⑥ 町と連携した空き家・空地等の環境対策等

これらの問題は、ここ数年前から掲げていた課題ではありますが、解決には至っておらず、早急に優先順位を含め検討を進めて行く必要があるテーマばかりです。

これらの課題は羽根野台自治会だけではなく、全国の自治会が抱えている問題です。愛知県春日井市では約50ある自治会・町内会等が抱える問題を市が中心となつて指導・解決する体制を目指して活動し成果を上げているようです。春日井市の動きは、自治会が抱える問題は自らが解決すべきテーマばかりではなく、行政及び他の自治会と連携して進めて行く事が重要であるとの共通認識に立って行動していることです。残念ながら我々を取り巻く環境は、行政との関係においても殆ど進んでいないのが実態です。

今後はそれぞれの課題を再認識し、自ら解決するテーマと、行政及び他の自治会との連携を模索しながら進めて行く事がより重要になってくるものと思われます。

その一つの事例として、自治会では電気代の高騰で、防犯灯の電気代及び区民センターの光熱費が年間百万円を超えるのが現実味を帯びてきました。（前年度比1.3倍）のまま費用が膨らんでいきますと自治会だけで負担するには限界があると思われる事から、私見ではありますが、問題解決の為に、他自治会とも連携しながら、行政にも協力を要請し、早急に対策を進める必要があります。

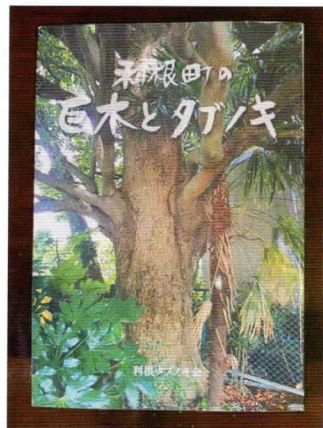
将来にわたり、自治会を発展・継続していくには現状大きな壁があります。自治会役員の任期は班長1年・会長等は2年（留任も可能）で原則交代となります。自治会は持続性が重要との観点から、歴史と伝統を守りながら、新たな時代に対応可能な姿を描く事への体制作りと人材確保が今後の鍵となると思われます。その時の役員に運営を任せるだけではなく、会員の皆様が率先して自治会活動に参画して頂く事が今後の発展への近道だと思います。

会員皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。 以上

羽根野の自然探訪（巨木編）

みなさんは、羽根野周辺にある数百年間も生き抜いてきた巨木たちをご存知ですか？

20年ほど前に、利根町公民館講座「里山の植物を知ろう」の受講者の有志を中心に発足した利根タブノキ会は、講座の講師であった植物研究家の渡辺剛男氏（国立科学博物館筑波実験植物園 学習指導員）の指導の元に、町内に生育する巨木やタブノキの実態を、2年ほどかけて歩いて調べ、2005年に「利根町の巨木とタブノキ」として出版しました。



今回は、羽根台地区周辺にある巨木たちを紹介します。

【諏訪神社のスダジイ】

諏訪神社は信州諏訪神社の末社で、古くから安産の神様として地域の信

仰を集めていました。羽根野台宅地開発時に、近在の諸祭神が合祀されたそうです。

南側参道下の鳥居西側にあるスダジイは、旧道に面しているため枝が切られ背丈はありませんが、幹周りが8m以上もあり低い位置で3分岐してどつしりと構えています。



諏訪神社のスジダイ

【諏訪神社のシロヤマザクラ】

諏訪神社の御神木で、樹齢は推定400年と思われます。ソメイヨシノは人為的に作られた桜ですが、ヤマザクラは古来の桜で花と同時に葉が開きます。地上から4本の幹を広げた姿は圧巻ですので、ぜひ花の咲くころに観賞していただきたい巨木です。また、利根町内には、町指定文化史跡である蛟蛸（こうもう）神社、鎌倉街道があり、千年以上も生育している巨木があります。

【蛟蛸神社 門の宮の大イチョウ】

「延喜式神名帳」927年に「相馬



諏訪神社のシロヤマザクラ

郡一座蛟蛸神社」とその名が記されているように由緒ある古い神社です。門の宮、奥の宮の二社殿からなり、門の宮には立木貝塚があります。その門の宮の鳥居左側にあるのが幹回り6.73mの大イチョウです。



蛟蛸神社 門の宮の大イチョウ

【鎌倉街道沿いのスダジイ】

昨年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の

13

人」でも紹介されましたが、源頼朝は鎌倉に幕府を開くと、軍事目的のみならず年貢や物資輸送のため鎌倉へ通じる道路を整備しました。鎌倉街道には主道が3つあり、上ノ道、中ノ道、下ノ道と呼ばれています。利根町の鎌倉街道は、下総国府（現在の千葉縣市川市）から常陸国府（石岡市）に通じる道路の一部であったと考えられており下ノ道にあたります。

当時は、布川を経由し、大平の船着場、奥山、押戸船着場へのルートで、陸路だけでなく、船運をも利用した街道であったと推測されます。

鎌倉街道沿いの八幡宮には、巨木のスダジイがあり、当時の面影を残しています。



八幡宮のスダジイ

「防犯講演会」 主催：利根町区長会

日時：令和5年1月22日（日）
場所：利根町文化センター

講演者：茨城県警察本部生活安全全部
生活安全総務課 犯罪抑止対策課
課長補佐 青木 剛氏

参加者：73名



住宅侵入窃盗被害防止の3つのポイント

- ① 鍵かけの徹底
- ② 窓ガラスの強化（補鍵、防犯フィルム）
- ③ 屋外防犯環境の強化（防犯カメラ、防犯砂利、センサーライト）

出典：「防災講演会」資料より引用

利根町で発生した犯罪の現状

刑法犯認知件数				窃盗犯件数			
	令和2年	令和3年	令和4年		令和2年	令和3年	令和4年
合計	44	68	50	窃盗合計	28	49	29
窃盗犯	0	1	1	侵入窃盗	15	20	7
軽微犯	5	0	9	自動車盗	1	5	0
窃盗犯	20	49	29	自転車盗	1	3	1
知能犯	1	4	2	部品ねらい	2	4	6
その他	10	14	9	車上ねらい	3	6	1

※なお、令和4年度の数字は暫定値です。

※なお、令和4年度の数字は暫定値です。

利根町で発生した犯罪は、窃盗件数が多いのが特徴です。年間30件程度の窃盗が発生し、その多くが住宅侵入窃盗事件でした。

また、茨城県の住宅侵入窃盗事件の7割以上が空き巣で、侵入手段としては、窓のガラス割りが67%と非常に多いのが特徴でした。

「侵入窃盗犯は、5分以上かかると7割が諦める」と言われており、時間がかかることを嫌がるので、補鍵や防犯フィルム

などの窓ガラスの強化、屋外の防犯カメラやセンサー

ライト等は効果があるということです。

また、最近では、関東地域を中心にSNSの闇サイ

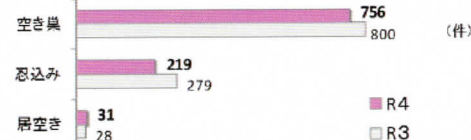
トで仲間を集めて、強盗を行

う凶悪な犯罪が多発しています。

住宅侵入窃盗事件発生状況

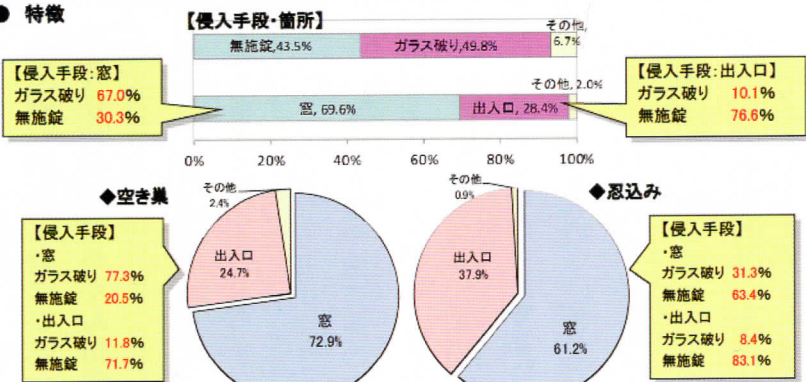
令和4年12月末 1,006件(前年比 -101件)

● 手口別発生状況



※ 住宅侵入窃盗の人口10万人当たりの認知件数（犯罪率）は、35.3件で全国ワースト、全国平均値の約3倍となっています。

● 特徴



出典：いばらき防犯ファイル R4 No. 61

令和3年度 特殊詐欺発生状況

	東京		茨城	
	件数	被害金額（円）	件数	被害金額（円）
総数	3,319	66億2158万	259	4億7684万
オレオレ詐欺	815	25億9064万	48	1億5250万
預貯金詐欺	777	10億5168万	26	1830万
架空料金請求詐欺	164	5億1234万	66	1億4210万
還付金詐欺	891	12億3874万	64	5405万
融資保証金詐欺	16	2857万	3	253万
キャッシュカード詐欺盗	652	11億8837万	47	5710万
金商・ギャンブル・交際・その他	4	1億1233万	5	5026万

出典：警察庁SOS47 特殊詐欺対策ページ
<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/sos47/>

最近の特殊詐欺の手口について

また、最近、利根町を含む県南地域でも、特殊詐欺が多く発生しています。特殊詐欺の手口は巧妙で多様になってきていますので、手口の特徴をしっかりと把握して、みんなで気をつけましょう。

急増している「なりすまし」は、ニセ医者、警察官、市町村職員、社会保険事務所職員、金融機関職員などです。注意してください。

ニセ電話詐欺（オレオレ詐欺など）相談窓口

茨城県警察ニセ電話詐欺相談ダイヤル TEL 029-301-0074
取手警察署 TEL 0297-77-0110

「ありがとう 文小学校」

利根町立文小学校は令和5年3月31日をもって、134年の歴史に幕を閉じます。同校は、明治22年に文尋常小学校に改称し、その後、昭和30年に町村合併により利根町立文小学校として開校しました。昭和51年には新校舎が完成し、また、昭和52年には文小のシンボルである大銀杏が移植され、現在に至っています。



文小学校

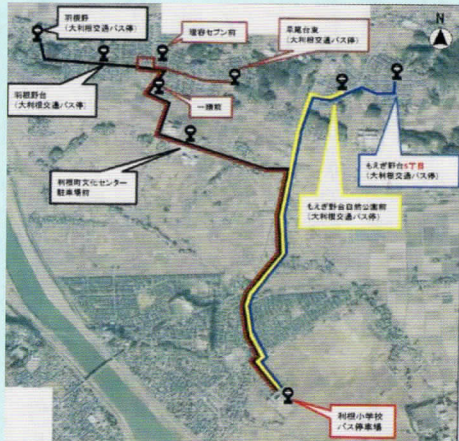
令和5年1月25日(金)には、閉校記念講演会が実施され、東京オリンピックメダリストのスポーツクライマー野口啓代(あきよ)さん(龍ヶ崎市出身)が「夢をかなえるために」をテーマに講演されました。なお、文小学校・布川小学校・文間小学校が統合して、令和5年4月より、新たに利根町唯一の小学校「利根小学校」が開校予定です。

来年度から始まる利根町立小学校のスクールバス通学について

令和5年4月の新学期から新たに生まれ変わる利根町立小学校の校舎は、現在の布川小学校の校舎が使用されます。これにより、学校から概ね1.5キロ以上離れた自宅から通う児童はスクールバスで通学することになります。

羽根野方面はマイクロバスが運行し、左図のように3箇所のバス停が設置されます。なお、バスの運行は民間委託される予定です。

登下校時は保護者や地域住民の方による見守りを、引き続き、ご協力お願いします。そして、地域として児童の安全を守る環境づくりを進めていきましょう。



利根町立小学校スクールバスルート

地域の防犯活動について(「ながら見守り」と「ひばりくん防犯メール」)

地域の防犯活動として、「ながら見守り」が見直されています。子供たちの安全を守ることが主な目的ですが、最近発生している空き巣や強盗等の事件に対しては防犯対策として重要な役割を果たします。散歩やジョギング等の日常生活の機会にできる「ながら見守り」を、地域の防犯活動として進めていきましょう。

また、「ひばりくん防犯メール」は、茨城県警察からの犯罪や不審者情報等をパソコンや携帯電話等に配信するサービスです。警察署や各種情報の選択も可能です。

add@mail.police-pref.ibaraki.jp

<会員の動向>

令和5年2月15日現在

入会：本村 勝彦 (31班)

退会：経沢 信一 (8班)

斉藤 ルエ子 (2班)

富田 光久 (12班)

高橋 富雄 (4班)

計報：古田 守利 (18班)

多賀谷 嘉昭 (4班)

田上 憲治 (30班)

謹んでお悔やみ申し上げます。

<羽根野台団地 会員状況>

令和5年1月末日現在

会員数 : 637世帯

非会員数 : 110世帯

自治会不参加数 : 8世帯

世帯数 : 755世帯

発行 羽根野台自治会

責任者 山岡 詔二

編集 自治会広報部

集記 編後

数年前、子供が捕ってきたカマキリの卵が玄関でかえってしまいました。

家の中では大変だからと外へ出すのですが、いつの間にか戻ってきているのです。何度か外と中を繰り返しましたが、ついにかえってしまい、1週間ほどは玄関だけでなくリビングでも見つかり、そのたびに大騒ぎでした。それ以来、「卵は絶対に外！」毎年暖かくなると、庭に小さなカマキリがたくさん現れるようになり、ちよとした我が家の風物詩となっています。今年も春が待ち遠しいです。

若泉 (23班)